病児保育協議会
news
全国病児保育協議会ホームページ　http：//www.byoujihoiku.ne.jp

第63号
2012年（平成24年）1月1日
〔発行人〕　会長 木野　稔
〔発　行〕　全国病児保育協議会
〒535-0022 大阪府大阪市旭区新森 4-13-17
TEL 06-6952-4778　FAX 06-6954-8621

ごあいさつ

全国病児保育協議会長　木　野　　稔

新年明けましておめでとうございます。

平成24年（2012）の始めにあたり、皆様方のご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。

昨年は、東日本大震災や度重なる台風の水害などの自然災害で、各地に甚大な被害がもたらされました。被災地における１日も早い復興をお祈りしますとともに、この未曾有の国難を全国民が協力して乗り越えながら、次世代に向けて日本のあるべき姿を模索し実現に近づくよう願っています。

さて、全国病児保育協議会も創立22年目を迎えることになります。最近、医師会や医会、保育関連団体が主催する会において、病児保育の意義、運営実態について講演する機会が増えました。10年ほど前まで「社会の必要悪」などと呼ばれ、無視されていた頃を思うと今昔の感にたえません。もちろん、今でも医療や保育分野の一部で正しく理解せずに批判する勢力が存在していますが、その一方で営利企業が病児保育の名を安易に使用しようとしていることも事実です。

私たちが目指す究極の育児支援としての病児保育の概念が理解されたとは到底言えませんが、このように認知が進んできたのは、少子化、男女共同参画社会の進展とともに、各地で病児保育に取り組んでいる施設（会員）の質向上に向けたたゆまぬ努力の賜物であると慶び、心より感謝いたします。

小生が会長に就任して以来の６年間を振り返ってみると、国庫補助事業施設数は496から943（体調不良児型を除く）となり、会員施設数も390から464（平成23年7月現在）へと増えました。その間、平成19年から本事業の担当が厚労省母子保健課から保育課に移管され、次世代育成支援対策交付金（ソフト交付金）として自治体の取組内容に応じて温度差の生じるものとなっていた事業費も、保育対策促進事業費として補助金に復活しました。さらに平成21年度（2009年）から補助金が実績に応じた段階性となり大規模施設には増額される一方で、小規模施設が切り捨てられる事態となりました。

協議会としては、保育課への要望はもちろん、社会保障審議会少子化対策部会において病児病後児保育事業の現状と課題について発言の機会を得るなど、事業制度の適正化を訴え続けてきました。平成22年７月の東京大会では創立20周年記念式典を開催し、20周年記念プロジェクトとして、機関紙「病児保育研究」が創刊され、またインシデント管理システム（mims）の導入を開始、さらには平成24年度には協議会の法人化に向けての定款改正を行う運びとなっております。子どもは未熟です、しかし成長発達過程を驀進しています。

私たちの協議会も未熟な組織ですが、年々成長しながら会員および社会のニーズに合うように発達していくよう努力する所存です。これから少子高齢化が一段と進むことは必定であり、社会で子育てを行うには子どもの専門家の関与が欠かせなくなるでしょう。

医療が関与する病児保育が、地域保健所や学校・園と連携した母子保健・育児指導の拠点（子育て支援ステーション化へ）になるよう初春に祈願いたします。

厚労省訪問記

全国病児保育協議会 副会長　原木 真名

10月25日、厚労省訪問にいってきました。

木野会長、稲見、池田、原木副会長、大川研修委員長の５人で厚労省保育課橋本泰宏課長と面会しました。今回は、保育課の担当者の変更があったこともあり、病児保育協議会の紹介、利用実績、赤字経営を強いられている実態、税制面での不利などの実情を説明した上で、以下のような要望をしました。

＊病児保育事業の展望と要望事項＊

少子高齢、男女共同参画社会の進展におけるニーズを満たすには、地域を問わず病児保育対応型施設数の更なる増加が望まれる。

また、事業主体である各自治体の本事業への取り組みに格差をなくし、普遍的なセーフティネットになるべきである。さらに、事業の目的と使命に見合うよう質の確保（安心・安全）が保障されなければならない。季節・流行状況による利用変動、隔離の必要性、早朝からの長時間対応、キャンセル率が高い等、本事業は運営を困難にする諸要因を内在する。

しかし、施設数が伸びない最大の理由は、赤字経営にある。補助金の増額および制度面での充実と社会的理解が望まれる。

1）補助金の増額：補助金は、基本部分は人件費を考慮し最低でも700万円以上が必要、さらに実績2,000人以上の利用においても、新たに基準を設定し増額が必要である。医師報酬および設備費(維持、補修費を含む)、研修費、事務費を考慮した金額にすべきである。病児対応、病後児対応とも上記考え方が必要である。

2）保育料の低額維持：本事業は子育て家庭に対する国のセーフティネットであることを明確にし、利用料は2,000円／日に抑制しておくべきである。

3）子育て支援ステーションの評価と理解：実施施設を医療の専門性を有した子育て支援ステーションとして位置づけること。事業主体である各自治体が、病児保育事業を中核として、保育所職員を対象とした「体調不良児へのケア」研修、保護者を対象とした「病児の在宅ケア」実習、「病児や発達障害児」への相談事業等を行えるような協議体を推進するように指導を願いたい。そして、本事業への評価と社会的な理解を進める仕組みを構築していただきたい。

4）社会福祉事業として：医療機関における税制面での不公平な取り扱いを改善していただきたい。病児保育を行う医療機関では、児童福祉法第21条の９に定める子育て支援事業を行いながらも、社会福祉法に定める社会福祉事業ではないとの理由から、委託金・利用料に消費税が課税されている。

その後、橋本課長から、現状について、いくつかの質問がありました。

厚）ただでさえたくさんの患者さんを診ている小児科医にとって、病児保育で子どもを預かるのは負担ではないのか？

協）物理的な負担はない。小児科医にとって、ある意味ベストな状況で診ているという自負心がある。また、地域の子育てセンターの役割も果たせている。しかし、財政面、雇用面での負担が大きい。新しい施設をどんどん増やすというのは財政的に無理がある。

厚）定員4～5人だと３部屋が標準となるが、そのように預かっているのか。ほぼ１対１対応になるのか？

協）感染症の種類によって対応がかわる。一人ずつ隔離して預かる必要がある場合もあるし、しきりのような簡易隔離で対応する場合もある。病状によってもあずかれる人数がかわるため、利用率が上がらない。部屋を増やせばスタッフも多く必要。稼働率だけでは評価できない。

また、協議会より、体調不良児型の位置づけについて、質問したところ、＜体調不良児型は普通の保育園で預かれるレベルを預かる。保育園の基本的なベースアップを考えている＞という返答をいただきました。

協議会側からは、別個に存在するのではなく、医療機関併設型のまわりに保育園併設型や体調不良児型があるような、連携した配置が作れるのが理想。それぞれの位置づけをしっかり見据える必要がある、と要望いたしました。

病児保育の現場をぜひ見学に来ていただけるようにお願いして、今回の訪問を終えました。

「インシデント管理システム」ソフト mims（マイムス）まずは使ってみましょう

インシデント PT リーダー 向田 隆通

１件の重大事故の背後には、29の軽微な事故があり、その背景には300のヒヤリ・ハットが存在する。安全で質の高い病児保育サービスの提供には、全国の病児保育室でリスクマネジメントの標準化が必要です。「インシデント管理システム」ソフト、mims（マイムス）を、病児保育室でのリスクマネジメントの標準化とすることを2011年７月の第21回全国病児保育大会in大分の総会で承認を受けました。

mims（マイムス）は、インシデント（ヒヤリ・ハット）の報告、集計及び対策の検討を簡易に行うことができるようになっています。インシデント（ヒヤリ・ハット）を記録管理し対策実施を管理することで、重大事故の発生を未然に防ぐ事を目的とし、職員の意識向上も目的としています。導入に際しご負担をいただきますが、負担以上のメリットを、入力業務等デメリット以上のメリットを感じていただけると自負しております。些細なインシデント（ヒヤリ・ハット）を報告することの大切さを理解していただき、日々の業務の中で発生するインシデント（ヒヤリ・ハット）をストレス無く入力でき、それを他の施設とのデータと併せて検討することで、自施設の事故対策に生かし、安全で質の高い病児保育になりますよう希望いたします。また、インシデント、ヒヤリ・ハットの入力だけではなく、株式会社管理工学研究所開発の保育記録ソフト「保育日誌システム」との連携も可能ですので、そちらも是非お試し下さい。

特に、当初の100施設には会長の英断により、mims（マイムス）を使用して、インシデント（ヒヤリ・ハット）を入力していただき、使用後でのアンケート等の調査に協力いただく事で、施設負担を協議会で持たせていただくとことになりました。

今回の協議会ニュースと一緒に応募の要領が同封されていることと思います。是非、多くの施設の応募をお待ちしております。

基礎研修 看護

佐藤小児科医院　病児保育室バンビーノ室長　佐藤里美 先生

病児保育室における看護の大切なポイントが２つある。

１つは個々の患児の症状にあわせて適切なケアを行うこと。２つ目は「なにか変だ、さっきと違う」と患児の状態の変化に気づき医師に連絡することである。

１．いずれも病児保育の看護の第一歩はアセスメントである。

（１）**情報の収集**
子どもや保護者のいうことに耳を傾ける。

（２）**印象診断**
自分の目で顔色が良いかどうか確かめる。

（３）**全身の状態**
食べる、寝る、遊ぶの３つは正常か。

（４）**情報の共有**
多忙な時こそスタッフのコミュニケーションの時を多く作る。

２．２歳、急性上気道炎の男児の具体例

入室までの様子、入室児の様子で情報を収集する。

母親よりのはなしと、食・眠・遊はどうかなどのアセスメント。医師からの観察の指示を受ける。

実際の保育中の看護では、発熱、咳や呼吸状態、食事がとれるか、水分接種が十分できるか、患児の母親との分離や病気に対する不安などに配慮する。これらのアセスメントに基づき、それぞれの症状にあった適切なケアをおこなう。

実例を含めて、病児保育の看護の要点をわかりやすく解説された。

みなみクリニック　南　武嗣

※基礎看護の掲載が遅れましたことをお詫びいたします。

北東北病児保育室交流会開催の報告について

青森、秋田、岩手県の病児保育室で構成する「北東北病児保育室」の交流会が、平成23年10月２日(日)「あえりあ遠野」を会場に開催されました。この交流会は、開催地を北東北３県で巡回しながら毎年開催されているものであり、第９回目となる今年度は岩手県遠野市で開催されました。当日は、病児・病後児保育事業に取り組んでいる北東北３県の医師、保育士及び看護師や、自治体職員などの関係者ほか、遠くからは北海道函館市からの参加もあり、総勢 100名を超える交流会となりました。

午前の部では、「遠野市の沿岸被災地後方支援－「縁（えにし）が結ぶ復興への『絆』（きずな）－」と題し、岩手県沿岸被災地の復興に向け、現在も官民協働で後方支援活動を続けている遠野市を代表し、遠野市長本田敏秋氏から震災当時の状況や、これまで行ってきた支援活動について、ＤＶＤを交えながら特別講演が行われました。

午後は３つの分会に分かれ、それぞれの分会において活発な意見交換がなされました。特に分科会３においては、病児保育室の設置を考えている施設の職員や自治体職員の参加も目立ち、補助金の申請や市町村及び県との関わり、設置に至るまでの流れなどの意見交換が活発に行われました。

最後の全体会では、分科会の司会者がそれぞれの分会で出された意見を集約して発表を行い、北東北病児保育室交流会代表、青森県弘前市の城東こどもクリニック松原徹氏が、「子どもにとっての本当の幸せ（最善の利益）は何か、その答えが見いだせたセミナーとなった」と全体の総括を行い閉会しました。これからも北東北病児保育室交流会では、子どもの最善の利益を第一に考える看護保育のあり方を、会員相互で協議しあい、有意義な交流会を続けていきたいと考えます。

岩手県遠野市子育て総合支援センター
子育て総合支援室 主任　**立花　正行**

第９回 北東北病児保育室交流会

青森県の支部長を任せられている松原です。

青森では秋田、岩手の三県の病児保育施設と合同で毎年秋に「北東北病児保育室交流会」を開催しています。次第に大きな会に成長し、毎回100人前後の参加者があります。

今年、岩手の遠野市で開催された第９回の交流会は行政が主催した会で、その熱意と視野の広さに驚かされ、被災地でもある遠野に逆に皆がパワーを貰って来たのでした。この三県では保育園と単独型の病後児保育室、そしてクリニックの病児保育室とが融和し、お互いに刺激しあい、各施設ともより高いレベルの保育看護を目指しています。

また、交流会では我々が実践を通して学んだことや医療機関が持っている専門的な知識を地域に還元することも大きな役割と考え、一般の保育園、幼稚園にも声を掛け、会員以外にも多くの方に参加して貰っています。「ことりの森」の開設当初の行政との折衝の際には協議会の沢山の先生方に助けていただき、そして病児保育事業の理念を教えていただきました。また、帆足先生の保育と看護の融合の話にも感銘し、その実践に努めて参りました。

これからも病児病後児保育事業が決して単なる就労保障ではなく、子ども達が心身共に健やかに育つ事を願う施設であることを、社会に認知されるべく頑張っていきたいと思っています。

城東こどもクリニック ことりの森　**松原　徹**

平成23年度東京支部勉強会

平成23年10月23日（日）に東京支部勉強会をコンベンションルームＡＰ渋谷にて開催しました。当初の予想を上回り協議会非加盟施設を含め110名の参加がありました。

今回は大分大会で基礎研修を講演していただきました玉川大学の宮崎先生を再びお招きし改めて「保育看護」についての講演をお願いしました。宮崎先生は保育看護の専門性について、わかりやすく丁寧に保育の基本をお話してくださいました。

また、もう一人は大阪の病児保育室こひつじの看護師、岸本範子さんに「病児保育的ナースの感染予防の考え方」というテーマで病児保育看護師のベテランならではの講演をしていただきました。保育室でのエピソードを交えながら感染の話をしていただき手洗いが如何に重要であるかを参加者の皆さんが再確認することができました。

最後に、事前に各施設からいただいた疑問、質問に答えるパネルディスカッションを行いました。宮崎先生岸本さんを始め、医師、保育士の代表が、日々

の疑問や質問にそれぞれの目線から答えて行くことで、明日から即実践できる話しが多く、参加者の皆さんの真剣に耳を傾けている姿に病児保育に対しての熱い情熱を感じることができました。

質問を事前に受け取っていたため、スムーズに進行したにも関わらず、時間延長するほどの濃密な会となりました。東京は１年に１回の勉強会を設けているのですが、何回かやるべきだと思うほど参加者の皆さんの意識は高いようでした。

いなみ小児科　病児保育室ハグルーム　**池田　光恵**

第６回 石川県支部交流会

2011年６月12日（日）に金沢市教育プラザ富樫１号館123研修室にて、第６回石川県支部交流会が開催されました。

全国病児保育協議会の加盟施設４施設、非加盟施設８施設、(内、体調不良児対応施設２施設)、遠くは、福井県からも１施設、計37名の参加となりました。

10時～ 12時の約２時間、保育・看護の質的向上をめざして、学習会、グループワークを行いました。初めに、石川県支部長山田優子先生より挨拶及び非加盟施設へ「全国病児保育協議会」への加盟の呼びかけがありました。

その後、前半は、野間拍子木の会代表・野間成之先生より、「紙芝居の実践と子ども達の様子」と題して紙芝居の実演を交えながら楽しくご講義頂きました。

後半は、グループワークを行い、日頃の疑問点などを出し合い、遊びの工夫や人気のある玩具は何か、という情報交換や感染症隔離室の対応、障害児の受け入れをどのようにしているかという具体的な質

問、保育士と看護師の間での意見の相違等、各施設でかかえる問題、対応の仕方といった多種多様な話し合いがもたれました。

交流会終了後、石川県支部会の今後の運営について、全国病児保育協議会へ加盟している各施設が集まり、話し合いがもたれました。

今後も石川県の病児・病後児、体調不良児施設がより良いものとなるよう有意義な交流会にしていきたいと思いました。

聖霊病院・聖霊乳児院病児デイサービスセンター　**松野夕起子**

大阪における病(後)児保育の現況と課題

少子化対策をあざ笑うかの如く、少子化にブレーキがかかる気配は見られない。究極の育児支援「病児保育」が果たしてきた役割をどのように評価するか、意見はさまざまであろう。保育に携わるスタッフの中には1.57ショック（平成元年）以降に生まれた世代も少なくなかろうし、何も少子化対策のために働いているわけではないという意見が出ないとも限らない。「子どもと家族を応援する日本」の重点戦略は、「仕事か、出産・子育てか」という二者択一構造を改め、保育所整備など子育て支援サービスの拡充や、長時間労働の改善などによってワーク・ライフ・バランスを高める対策の二本柱で構成されている。

補助金を受けてない病児保育所を含めると大阪府全体で60数施設を数えるが、医療関係者の危機感を反映してか病院内病児保育施設の開設も相次ぎ、既に30数病院に院内病児保育室が設置されている。大阪府医師会も重点施策の中で病児保育の拡充を謳い、市民全体を対象にした事業展開を目指している。施設数は十分ながら偏在や施設のない空白地域があり、その解決は大阪支部の課題となっている。

制度の存在を知らない人、知っていても施設の所在地や利用法が分からない親も少なくない。国や自治体も、協議会ももっとPRに力を入れるべきであろう。大阪支部では、「子育ては社会全体で」と「社会保障給付費の配分をもっと子どもに」を反芻しつつ、年４回の定例会と総会を開きスタッフの研鑽に努めている。

本年の総会講演会は、「発達障害 それとも わがまま？ 保育現場での気づきをどう生かすべきか」というご講演を、すずきクリニックの鈴木周平先生にお願いした。

講演に先立ち、保育する児童の問題行動についてアンケート調査を行い、その課題についても解説を賜った。

大阪支部長
浜本小児科病児保育室　浜本　芳彦

「第３回 四国ブロック研修会 in 徳島」開催報告

平成23年９月23日（秋分の日）、徳島市幸町徳島県医師会館において、「第３回四国ブロック研修会in徳島」が開催されました。

同研修会は第１回を平成21年松山市おいて、第２回を平成「22年高松市において開催されています。今回の参加者は全体で77名となり、内訳は徳島県内46名、県外31名（愛媛県12名、香川県16名、高知県３名）であり、職種別では医師16名、保育士34名、看護師16名、栄養士２名、その他９名、また性別では男性13名、女性64名でした。

研修会内容は４つのテーマ（①食物アレルギーについて、②感染対策について、③防災対策について、④病児保育で今、困っていることについて）において事前に各県施設にアンケート調査を実施し、調査結果発表と各テーマに関する講演の後、グループ別に意見交換と情報交換を行いました。グループ別になることで参加者の交流が深くなり、活発な話し合いとなりました。特別講演ではNPO法人の一般人による「徳島県における子育て支援の取り組みと病児保育」という演題で、徳島県における子育て支援の取り組みの紹介と病児保育の位置づけや希望が話されました。研修会後の参加者へのアンケートでもおおむね好評であり、全体に盛会でありました。

今回の研修会を開催して、その準備をしていく過程で、それまで県内の病児保育関係者のつながりが希薄であったものが、次第に深くなりました。そして、研修会終了後反省会を行い、今後県内での交流や集まりを継続して行うことが計画され、大変実りの多い研修会でありました。

第３回四国ブロック研修会 実行委員長
田山チャイルドクリニック　田山　正伸

愛知県支部長紹介

名古屋市で病児保育室プチポケットを運営している医療法人松川クリニックの松川武平と申します。

私の原風景は幼少期に過ごした飛騨の山奥にあります。私の父が戦後飛騨の無医村の診療所で仕事をしていた関係で小学校入学まで山と田んぼしかないような山村で過ごしました。全く何もない所ですので全てが自然相手、自分で飛び回り遊びを見つけなければならない毎日でした。そんな生活を送っていた性か好奇心旺盛な多動児になってしまったようです。気になる事はやって見ないと気がすまない性格が身についたようです。お陰で色々な経験もしましたが、沢山の失敗もしました。損な事もいっぱいした様な気がします。後先考えずに病児保育も始めてしまったのもその為かも知れません。

長い間補助制度がなかったため大変苦労をしました。それからもう一つ、私の両親はおそらく忙しかったのでしょう、私は子どもの頃に親に遊んで貰った記憶がありません。その為か村の大人の人の多くが僕の遊び相手でした。

診療所の職員、村役場のお兄さん、床屋のおやじさんいろいろでした。それこそよその大人を相手に遊ばなければなりません。毎日ポケットに花札を持ち歩く、少し変な子でした。別に賭け事が好きに成った訳ではありません。私自身たくさんの人に助けられて育ったわけです。この時期、多くの大人の人たちと接する事が出来た為か、社会性が早い時期に身に付いた様な気もします。

子どもの頃にたくさんの大人の人（他人）と触れる事は大切です。今の子ども達は社会から孤立し他人と触れる事が少ないような気がします。そういった意味でも病児保育を通して多くの大人の人と接する事は子どもにとって大変有意義な事と思っています。私のこんな幼児体験が病児保育をやらせていると言っても過言ではないと思えるのです。

愛知県支部長
病児保育室 プチポケット　**松川　武平**

第6回 愛知ブロック交流集会

平成23年6月4日（土）に第6回全国病児保育協議会愛知ブロック交流集会が名古屋市緑区にある南生協病院・病児保育室「にこにこ」で行われ、15施設51人と多くの方々が参加されました。

講習会では元保育園園長を講師に招き「わらべうたを学ぼう～子どもに人気のわらべうた～」を学習しました。なぜ子どもはわらべうたが好きなのか、わらべうたを歌うときに気をつけたいことなどをお話していただきました。

病児保育に合った保育のアイデアがあり、即実践できる内容でよかったと、参加された方々からも好評でした。

分科会では、①看護師の病児保育室での役割、②緊急時の対応、③遊びの紹介、④その他、質問のコーナーと4つのテーマに分かれ意見交流しました。それぞれのグループで内容の濃い話し合いができ、各施設で抱える問題点など知ることで、改めて見直しするきっかけにもなりました。まだまだ話したりないと思うほどのあっという間の2時間でした。

今後も施設ごとのつながりを大切にしながら交流していきたいと思いました。

南生協病院・病児保育室「にこにこ」**服部ももこ**

山口県支部活動報告

山口県支部長を引き受けて４年程になります。山口県の病児保育は現在21施設です。山口県は人口140万人台で中小都市が散在しており、県中央に大きな都市があるというパターンではありません。私が住んでいる宇部市は人口17万人で県下では下関についで２番目に大きな街です。2000年に２か所の病児保育が立ち上がり、2008年に３か所増え、計５か所となっています。これは人口割にすると全国でも稀な例となっているようです。

2010年２月に第一回山口県病児保育研修会を宇部市全日空ホテルで実施しました。保育士、医師、看護師など約120名が集まりました。当日は、特別講演としてみなみクリニックの南武嗣先生をお招きし「あ、急変だ！ドクターをいつ呼ぼう」と題して講演頂き、それに加えて教育講演「病児保育室でのウイルス感染症の対処」、行政による「山口県の病児保育の現状」の３つの講演を企画しました。午後から行った分科会では、医師及び施設長を対象とした運営管理をテーマとする会とコメディカルスタッフを対象とした現場での工夫や問題点をテーマとする会に分かれて討議を行いました。次回は2012年２月を予定しています。山口県は前述の通り中小都市が散在するのが特徴です。病児保育についても各市レベルでの増設が期待されており、県は現在の21施設を平成26年度までに30施設に増やすことを希望していますが、新設の気配はありません。医師にやる気があっても場所・自己資金・スタッフなどの問題がネックになっているのかもしれません。これらを打開するには引き受けて頂けそうな先生に目をつけ個別にアタックするのが一番効果がありそうです。良い知恵があればぜひ御教示下さい。

山口県支部長
鈴木小児科病児保育所 すくすくハウス　鈴木英太郎

宮崎県支部活動報告

私が、病児保育所を開設したのは平成９年です。私は、保育所か幼稚園を小児科医院に併設して経営する長年のささやかな夢を持っていた。が、何だか、難しい状況だったみたいで、ほとんど諦めていた、そのときに、新聞だったかなぁ、厚生省の小児科対策の一環として、病児保育所の認可を考えている旨の記事を読んだのであった。

これだ!!私はすぐに市役所の児童福祉課に出掛けていき、病児保育所の運営の詳細をたずねて、すぐさま実行に移したのであった。だから宮崎市第一号の病児保育室だったのです。やってみて縛りは多いし補助金は少ないしで実際の運営は厳しかった。共働き夫婦で子供が病気すると、健常児の保育所は預かるのを拒否するので、病児保育所は、その存在意義が出てくるのだが、当時は年間460万円の補助金に過ぎなかったのである。しかもその補助金は人件費だけに使え、その他の経費に使うことはまかりならんであったのだ。毎年赤字、病院からの補填、税理士さんは「やめてしまいなさい」とうるさかったのである。14年がたった。いまやっと、トントンの状況である。宮崎市内には小児科病院併設型が三つでるが、「やめたいな」の声が大である。昨年からの出来高補助金は貰えない区分が出てきたからである。私の病児保育所も実績が少なかったとの理由から、昨年の７、８、９月分の補助はなかったのであった。理想は清よく高くだが、現実の運営は厳しいものがある。

〔支部から〕

宮崎県の病（後）児保育施設は、病児型３施設、病後児型11施設、体調不良児型16施設、その他１施設の計16施設が稼働しています。支部としての活動は一昨年度協議会からの助成を頂き、講演会を行いました他は特に行っていませんが、有志者の集まりで交流会を隔月に行っております。交流会は県内の病児保育の質の向上と統一した保育看護の提供を目指して地道な活動と研鑽を続け、今年度で10年目を迎えます。開催時には各施設の課題や個々の悩みを持ち寄り討議しています。

また、流行の疾患について意見交換したり保育士と看護師の視点から意見が聞ける場でもあります。先輩施設においては助言や失敗・成功談話すことによって新たな発見があり、今後も参加者自身にとっても成功できる会である事を期待しています。

宮崎県支部長
小野小児科医院病児保育室施設長　小野　武己

新規加盟施設紹介

施設名　医療法人 松下こどもクリニック
病児保育室「ティーグル」

所在地　大阪府門真市末広町１８－９
TEL：06-6115-5174
http：//www.kids-clinic.com/

記入者名　（理事長）松下　享　**定　員**　6人

開設日　平成２３年9月１４日　**スタッフ**　看1人、保5人

本年９月より、松下こどもクリニック（大阪府門真市）の２階で病児保育室「ティーグル」を開室しました。日常診療の場においてその必要性を肌で感じていたことや当市には病児保育室がないことなどから、以前からやってみたいと考えていましたがなかなか実現できず、スタッフの理解もあり開院８年を迎えてようやく実現することができました。おかげで、当院２階にあったスタッフの更衣室や休憩室は狭くなり、院長室は倉庫に移動するはめになりました。「ティーグル」の由来は、私が阪神タイガースファンであることからそのフランス語での読みを当院の職員が提案してくれたものです。もちろんシンボルマークも可愛い「トラ」であり、イラストも職員が書いてくれています。

観察室（隔離室）は１部屋だけなので多くの子ども達を保育することはできませんが、少しでもお役に立てればと思っています。保育士５名が交代制で担当しています。当病児保育室の自慢は、保育士･看護師･医師の連携と各人の心意気です。小さい保育室ですが、愛情が溢れる保育室を目指しています。ハード面やソフト面はまだまだ不十分ですが、これからもよろしくお願い申し上げます。

突撃！保育室のお昼ごはん

施設名：慈愛園乳児ホーム「エーネホーム」
（熊本県熊本市）
定　員：６名

病児保育エーネホームは、乳児院に併設しており、保育士・看護師・栄養士・調理師が専門性を活かしながら病気のお子様をお預かりしています。

さて、子ども達のお昼ご飯ですが、乳児院に併設していることもあり、同じ厨房で一緒に作っています。もちろん、離乳食を作ったり、その日の子ども達の症状に合わせてメニュー変更も行っています。（食物アレルギーのお子様にはお弁当を持ってきてもらうようお願いしております。）

気力、体力が低下し、慣れない場所への不安もあって、あまり食べない子もいれば、お代わりをするくらいに食欲旺盛な子もいます。

栄養と休息をたっぷりとって早く元気になって欲しいと皆で願っています。

今回の献立はこちら

〔**1歳児**〕鶏雑炊、かぼちゃのあん煮、玉ねぎのスープ、りんご
〔**小学生**〕ご飯、鶏と野菜の卵とじ、かぼちゃのあん煮、玉ねぎのスープ、りんご

『突撃！保育室のお昼ごはん』では保育室の昼食をご紹介します。昼食のみならず、人気メニューや昼食に関すること、取り組んでいることなどのたくさんの情報をお待ちしております！

次号掲載の締め切りは**2月29日**です。宛先は、広報総務担当 岸本まで。

第22回 全国病児保育研究大会 in 神奈川

子どもたちの笑顔を願って －保育室から喜び悩みを持ち寄ろう－

前号でお知らせいたしました通り、第22回全国病児保育研究大会が、7月15日（日）16日（祝）に慶應義塾大学で開催されます。

特別講演は、元厚生大臣で参議院議長も務められた、全国社会福祉協議会会長 斎藤十朗様にお願いいたしました。教育講演といたしましては医療、心理、食育に関しての３題を予定しています。例年通り研修委員会による基礎研修もございます。

また、特別企画として、JALスタッフによる折り紙ひこうき教室、男性ボーカルグループjammin' Zebによるコーラス教室、piccoloなどで保育士さんにはおなじみ犬飼聖二氏による手あそび・歌あそびのコーナーを用意いたします。

一般演題は、口演、ポスター発表の両方を募集しますが、初の試みとして発表のないポスター（掲示のみ）も受け付ける予定ですので、どうぞ奮ってご参加ください。

更に、ご希望が多かった“何でも相談”の時間を復活させる予定です。内容別にいくつか計画いたしますので、是非ご参加頂き、日頃の悩み等を発して頂けたらと思います。

詳しくは、下記の大会ホームページで随時更新していきますので、是非ご覧ください。

●大会ホームページ●

https://v2.apollon.nta.co.jp/hoiku_2012/

第22回全国病児保育研究大会 会頭 **池田 奈緒子**

みんなにききたい！

Question

入室中の服装はどうしていますか？
（福岡 保育士）

Answer

◎病院に併設された病後児保育室です。こちらではパジャマは着せていません。持参もないです。（看護師）

◎保育園併設の病後児保育室です。入室中は普段保育園に登園するときの服装と同じです。入室中も寝ていることはなく、安静度に応じて室内遊びからお散歩もしています。（看護師）

今回お話を聞かせていただいた施設では、パジャマ着用の所はありませんでしたが、調べたところ、入室中はリラックスできる服装（パジャマなど）を着用する所もあるようです。入室中だけでなく、お昼寝の時も、「そのまま」、「パジャマ着用」、「夏は肌着で」、など地域色があるようでした。（常丸）

次回のQuestion

年長児さんから小学校低学年のこどもの遊びを教えてください。（職種不明）

何件かファックスで遊びについてのご質問をいただいています。ありがとうございます。今回はちょっぴりお兄さんお姉さんの子供たちとの遊びについて、お聞かせください。「こんなゲームが喜ばれました！」「製作はこんなのをやっています」「こんな遊びを試してみては？」などなど、皆さんのアイデアとアドバイスを募集しています。

日々の保育看護での悩みや他の施設ではどうしているのかなどのご質問や質問に対するご意見をお待ちしています！勤務地、職種をご記入の上、下記までご応募下さい。

郵便：〒080-0038 北海道帯広市西15条北４丁目2−7
FAX：0155-67-1141
E-mail：hinatabokko-kikitai@memoad.jp
「ひなたぼっこ」 常丸宛

編集後記

新しい年を迎えました。各地域・各施設の様子がわかるように、また大切な情報をお伝えすべく、広報委員一同工夫をこらして取り組んでいます。よりよいものになっていくようがんばりますので今年もよろしくお願いします。（神原雪子）

協議会ニュースに関するお問い合わせ先

〔広報委員会総務〕
〒577-0802 大阪府東大阪市小阪本町1-11-3
医療法人あおぞら会 **ふじもとクリニック**
病児保育室こひつじ 岸本 範子 宛
TEL：06−6730−5828 FAX：06−6730−5828
E-mail：kohituji@fujimoto-clinic.org

〔全国病児保育協議会事務局〕
〒535-0022 大坂市旭区新森4-13-17
社会医療法人真美会 **中野こども病院**
TEL：06−6952−4778 FAX：06−6954−8621
担当：薮田・堀込
http://www.byoujihoiku.ne.jp

Printed by AIKOHA